学校名:八幡平市立西根第一中学校

## I 事業の概要(地域の実情含む)

本校は、岩手山の噴火に対する備えが不可欠な 立地であり、緊急の場合に体育館が避難所として 開所される可能性がある。その事態をシミュレー ションしながら、毎年「避難所運営実習」に取り 組んできた実態がある。

平成30年度には学校公開で取組の一端及び成果を発表し、地域への情報発信にも積極的に取り組んできた。本年度も、3学年が中心となる実習を取組の柱とし、様々な実践を積み重ねてきた。

体験的な学習を積み重ねることにより培われた 力は、噴火以外の自然災害にも対応できる能力と なる。これからの長い人生において、さまざまな 自然災害に遭遇した際の自己防衛や危機管理に生 かされ、「よき支援者・よき被支援者」になること ができると考える。

以上のことを踏まえ、「自ら考え、判断し、安全 に行動できる能力の育成」を目指して、本事業に 取り組んだ。

## Ⅱ 取組の概要

## 1 1 学年野外体験学習

実施日 令和元年7月3日(水) 場 所 イーハトーブ火山局 岩手焼走り国際交流村

内 容

### (ア) 事前学習

八幡平市のキャッチコピー「八幡平市の 農(みのり)と輝(ひかり)」を元に、地域 学習の事前学習を行った。火山としての岩 手山の歴史、噴火のメカニズム、噴火によ って起こる被害の予測、災害に対する備え について調べ学習を行った。また、負の面 だけでなく、地熱発電の利用等、火山によ る恵みという側面からも学んだ上で体験学 習に臨んだ。

## (イ) 施設見学・調べ学習

イーハトーブ火山局で、岩手山の歴史の みならず、世界の火山の様子や地熱資源の 活用などについて学んだ。

パネルや模型等の展示を見学し、自ら操作

することで噴火被害を受ける地域を地図上 で確認することができる装置などを使い、 主体的に学ぶことができた。生徒は、事前 学習の内容を深めたり、疑問を解決したり することのできた有意義な体験だった。



(ウ) 八幡平市生涯学習まちづくり出前講座 市役所企画財政課の職員の方から、「地 域が支える農(みのり)と輝(ひかり)」 と題して、講義をしていただいた。市内の 地熱発電所歴史と様々な活用について学 び、これからの八幡平市について考えるこ とができた。



#### (工) 野外炊事

避難所での炊き出しを想定して、非常時炊飯方法(米をラップで包み、水を張った鍋で炊飯する)を体験した。半信半疑で取り組んだ生徒もいたが、無事に炊き上がり歓声が上がる場面もあった。制約のある環境の中で工夫しながら取り組むことの大切さについて学ぶことができた。



#### 2 2学年宿泊研修

実施日 令和元年7月2日(火)~3日(水) 場 所 三陸沿岸北部(宮古市~久慈市) 内 容

## (1)「学ぶ防災」

宮古市観光文化交流協会の協力を得て、語り部による津波に関するお話を聞き、宮古市田老地区の防潮堤や震災遺構の田老観光ホテル跡を見学した。命の大切さについて学ぶとともに、防災・減災について考えるきっかけとなった。



# (2) 避難生活体験とグループ学習会

3名の講師をお招きして、東日本大震災当時の避難所での暮らしについてお話を伺った。実際の避難所で過ごした段ボールの仕切りを目の当たりにし、その狭さに驚くとともに被災者の苦労に思いを寄せる生徒の様子が見られた。



## (3) 宮古市立田老第一中学校との交流

お互いに、防災に関するそれぞれの学校 の取り組みを紹介し合った。その後、自分 たちの住む地域のよさと、自分たちが地域 でできることについて意見交流し、「同じ岩 手の中学生として一緒に何ができるか」に ついてともに考えることができた。また、 校内に展示されている震災関連の資料を見 学させていただいた。



## (4) 震災学習列車乗車

三陸鉄道北リアス線の田野畑駅~久慈駅の間を乗車し、語り部の説明とともに車窓から見学を行った。震災後8年を経過しても、被災地の復興が途上である現状を見て、改めてその道のりの長さを実感していた。



#### 3 3学年修学旅行

実施日 令和元年9月3日(火)~5日(木)

場 所 東京方面

内 容 そなエリア見学

東京都下で大規模災害発生時の取りまとめを想定した防災拠点施設を訪問し、見学と体験を行ってきた。東京直下型地震にかかわる体験施設なども充実しており、将来、都会で生活する可能性も想定しながら学ぶことができた。

また、様々な防災に関するグッズの展示から、生徒の防災に対する興味関心が高まる様子が見られた。



## 4 平舘高校文化祭への資料展示

実施日 令和元年10月20日(日) 場 所 岩手県立平舘高等学校 内 容 避難所運営学習の成果の展示発表 本校と共に「いわての復興スクール(内陸)」 の事業に取り組んでいる平舘高校の文化祭(紫

薫祭)で、本校の取組を紹介した。

前年度の取組として、避難所運営実習の事前 取組から当日の運営までの流れを写真で紹介す るとともに、避難所設営のシミュレーションに 用いた生徒の協議資料や体育館の割り振り図な どを展示した。会場には小学校の展示もあり、 小中高の連携や地域への発信の観点から意義深 いものがあった。



### 5 避難所運営実習(HUG実習)

実施日 令和元年 10 月 26 日(土) 場 所 西根第一中学校体育館 内 容

(1) 避難所運営実習の事前学習 実習の際に避難者役を務める1・2年生

は、事前に、実習の意義や目的、3学年で 運営者役になった時の心構えなどを合同で 学習した。また、初めての経験となる1年 生は、事前に導入教材を用いたシミュレー ションにも取り組んだ。



### (2) 避難所運営実習

3年生が運営の主体となり、避難所運営実習を行った。授業参観日に合わせて実施し、 1・2年生に加えて参観に来た保護者の方々や小学生にも避難者役をお願いすることができた。



3年生は、開始の合図とともに会場の設営を始めた。防球ネットや柔道畳などの学校備品で各家庭の居住スペースを確保し、段ボールで作成した手製の仕切りを使って、手際よく準備をすることができた。

2日前に1度だけ、設営の練習をしただけだったが、過去2年間、避難者役を務めながら3年生の取組を見て学んできた成果を発揮し、生徒同士が阿吽の呼吸で作業する姿が印象的だった。役割分担と、チーム毎の打ち合わせが十分に行われていたことも、手際のよさにつながったものと思われた。



避難者の受付では、「足が不自由なのでトイレに近い場所を希望する」「小さい子がいて、騒ぐと他の方の迷惑になるかも」「ペットと一緒だがどうすればよいか」といった避難者の様々な条件を精査しながら割り当てスペースに案内した。実際に起こりうる想定で、避難者を振り分けする役、毛布等の物品を配る役、どの避難者がどこの居住スペースにいるかを黒板に書き記す役など、それぞれが自らの役割を果たし、円滑な避難所運営につなげることができた。



避難者の誘導後は、避難者の要望を聞いて、飲み物を配ったり、移動に介助が必要な避難者の介助をしたりするなどの対応を行った。

また、実習の途中で体育館の暗幕を閉じて照明を落とすことで、停電下の夜を懐中電灯などの明かりだけで活動する体験も行った。



実習終了後には、運営側と避難者側の双

3年生にとっては、中学校生活の防災学習の総決算であり、充実した表情で締めくくることができた。1・2年生は、次年度以降の避難所運営での自分の姿を想像し、今後の学習に向けての意欲を高めることができた。



# Ⅲ 取組の成果と課題

### 1 成果

- 各学年での防災学習の目的を明確にし、次 年度につながる系統性のある取組を行うこと ができた。
- 野外炊飯や避難所運営実習など、実際の場面を想定して取り組むことで、生徒の取組の姿勢に真剣さが見られ、有益性を感じとることができていた。
- 2年生の宿泊研修では、沿岸の学校との交流を通して、岩手の未来を共に考えることができた。
- 宿泊研修や修学旅行では、地元で体験する 機会が少ない貴重な講話を聴いたり、施設を 見学できたりしたことで、視野を広げること ができた。
- 平舘高校文化祭での実践紹介や授業参観に 合わせた避難所運営実習は、本校の取組を外 部に発信することに効果的だった。

#### 2 課題

- 小中高の連携を広げられる取組を、もっと 企画できればよかった。
- 避難所運営実習の際に、組み立て式パーテーションなどの本物に触れる機会を持ち、実際に組み立て実習などができればよかった。